組合活動の
創造×想像
レポートの紹介

組合活動から仕掛ける「分断からつながりを通じたよりよい社会の実現」にむけた取り組み

Point 1

イベント内容の要約

サーキュラーエコノミーの実践と理論の普及が高く評価され、「青年版国民栄誉賞」にてグランプリを受賞した安居 昭博氏と、地域コミュニティで持続可能な暮らしを実践する市民活動を行う、NPO法人トランジション・ジャパン共同代表の小山 宮佳江氏に講演をしていただきました。

昨今注目されている、「SDGs」や「循環型経済」などのキーワードをもとに、企業活動にも利益を追求するだけでなく「社会的課題の解決」が求められるようになってきました。それに呼応して、組合活動においても地域や社会に向けた取り組みをテーマとして掲げる組織が増えています。

安居先生からは、今までのような企業の本業以外でCSRとしての環境への取り組みではなく、本業のビジネス活動自体を循環型のビジネスモデルへと転換する取り組みの視点・ヒントをご講演頂きました。サーキュラーエコノミーとは、従来のリニアエコノミー(作る⇒使う⇒捨てる)、3Rエコノミー(一般的なリサイクル等)とは異なり、廃棄物を出すことを前提とせず、資源を循環させる経済の仕組みです。例えば、廃棄されてしまう食品を活用して一流シェフの料理が安価で食べられるレストラン事業を展開する企業や、EUでは消費者の権利として＜修理する権利＞を制定することで修理しながら使い続けることができるサスティナブル製品が流通しやすい環境をつくっているなど、世界に先駆けてサスティナブルな社会づくりに取り組む地域での事例を共有いただきました。

小山先生からは、地域にある資源を活かした生活について、相模原市にある藤野のまちを例に情報共有いただきました。トランジションタウンという外部に依存することなく、地域にある資源を活かした生活を進める小山先生の講演は、まさに「トランジション(移り変わり)」にあるであろう令和時代の労働組合としても、親和性の高いものを感じた方もいらっしゃるのではないでしょうか。今こそ、地域とのコミュニティづくりの視点にあった、【楽しみながら参画してもらえるような】組織内での活動や、企業内労働組合として労使で取り組むべきSDGsや環境問題、また地域コミュニティへの貢献活動を改めて考えていこう、という気運の高まる企画となりました。

Point
2

今回のイベント企画の背景や目的は？

「SDGsへの取り組み」や「持続可能な社会づくりへの貢献」を活動のテーマとして掲げる組織が増えている一方で、その具体的な考え方や取り組み方について模索しているという悩みは多いです。「労働組合」という場や組合が持つ機能を活用してどのような取り組みができるのか、また、組合員に当事者意識をもって参画していただくためにどうしたらよいかの、お二人の活動や対話からヒントを得ていただき、個人・組織として一歩を踏み出すきっかけの場とすることをねらいとしました。

Point
3

今回のイベントで参加者のみなさんが得たことは？（参加者の反応や、意見、創発など）

安居先生の挙げられた事例として「本業と異なる植林活動をCSRの一環として行ってきた企業が多くあったが、今はそうではなく、本業のビジネスで利用者に使ったものを企業に戻してもらうことで、そもそも廃棄するという概念すら無くすような、【循環型のビジネスモデルを作る】というところにシフトしている」というお話には、企業としてこのような【循環型のビジネスモデル】に取り組むことが必要だと、まさに会社組織としても関心度の高いテーマだったというご意見もありました。

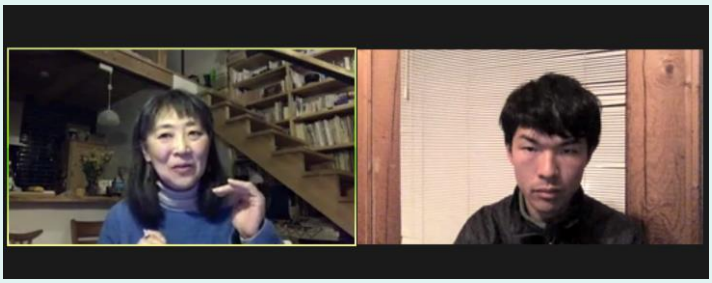
小山先生の相模原市（藤野）のトランジションタウンへの取り組みについては、＜脱依存＞し、＜相互依存＞していこうという動きとして、地域にある資源を活かした「地域通貨」や、地域住民自ら必要な資源つくり出す「藤野電力」の取り組み等について共有いただきました。講義後、「カーボンニュートラルに対してお二方はどうお考えでしょうか？」や、「循環型の街は、全てをその街で賄うことができることを目指す、ということなのでしょうか？」などの質問をいただきました。本企画の参加者同士では、「労働組合として意識変革への取り組み等、取り組めることがあるのでは？」について意見交換をし合いました。

開催後のアンケートでは、「サーキュラーエコノミーやトランジションという、これらの仕組みや考え方を組合発信で【実践しながら学び】、組合員にその情報を届けられれば、生き方や考え方をアップデートでき、皆が安心して働けるきっかけづくりになるのでは」という感想や、「身近なところからつながりを広げることや循環型社会を考えることが大事だと思った」などと今まで全然考えていなかった視点での活動のヒントが得られたとのご意見をいただきました。

Point
3

今後の労働組合の役割として強化すべき活動内容は？また新たに浮き彫りになった課題は？

サーキュラーエコノミーやトランジション・タウンについては、参加された組合役員のほとんどの方にとって今回初めて考える機会だったというほど、まだあまり日本社会では浸透していない考え・仕組みでした。地球環境や社会的な課題など、一労働者・一企業だけでは解決することが難しい問題が私たちの前にはあります。労働組合という「つながり」をどのように活かして取り組んでいくか、また、個々人があらたな視点を身につけ、日々身近なところから、つながり、広げることで循環型社会を考える、そんな取り組みのアイデアをどれだけ出していけるか？　という点も今後の解決へのヒントになっていくのではないでしょうか。

安居氏と小山氏の対談の様子

よりよい社会の実現について
熱い思いを語っていただきました